

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

回答数: 保護者11名・職員7名

公表日: 令和4年12月1日

回収数: ①保護者11名中8名 回収率72.7% ②職員7名中7名 回収率100%

事業所名: 放課後等デイサービスぴんぽん

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指導訓練のスペースと勉強のスペースをきちんと分けている。	8	0	0	0	当施設の指導訓練室は約87.8㎡あります。国の設置基準である児童1人当たり4㎡以上、10人規模であれば40㎡以上という基準を大幅クリアしています。
	2 職員の適切な配置	毎日、児童指導員2人と管理者1人、児発管1人、指導員1人を配置している。	5	1	0	2	国の人員配置基準は遵守しており、児童指導員2人以上指導員1名以上の人員配置を組んでいます。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	個人毎の特性に応じた設備の確認は今後必要。	6	1	0	1	子ども達が安全に過ごせるようにこれからも配慮してまいります。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃と消毒は欠かさずに行っている。					屋外、屋内、送迎車の清掃・消毒の継続と徹底。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	朝礼にて目標への進捗状況の確認を行っている。					今後は進捗に応じた行動の修正もきちんとしていきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	まずは、利用者からの評価をきちんと分析し業務改善に努める。					今後の重要課題だと考えています。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	利用者が通う他事業所(放デイ)との合同ミーティングの実施。					LITALIKOが実施しているZOOM研修への参加。
	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者に御来園頂き、担当者会議を実施することで保護者の思いをきちんと受け止めた。					保護者から子どもへの思い、事業所に何を求めているか、事業所として何が出来るかを相談し合い、計画書を作成。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別活動に重きを置きがちなので、集団活動を主とした支援も考えたい。					集団活動による支援の充実を図る。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	相談支援専門員からの支援内容を熟読し、対象児に応じた支援方法を考える。					保護者様に分かり易い個別支援計画の作成。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画時と異なるニーズが発生した場合は再度担当者会議を開催し、柔軟に対応。					ケアマネジメントを分かり易く説明する必要あり。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない		
適切な支援の提供	5 チーム全体での活動プログラムの立案	『四季に応じたイベント』を含めたいろんな活動プログラムを計画。	/	/	/	/	「自立支援」「創作活動」「地域交流」「余暇支援」の視点で活動プログラムを作成し、計画・実施後は振り返りを行い、来年に繋がるような、より良いプログラムを構築。	
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇に関しては、事前に職員全員で『個人ごとの目標』と『それに対する支援方法』を協議。	/	/	/	/		
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	職員間で、毎月の活動プログラムについて偏りが無いよう話し合っている。	7	0	0	1		
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝礼で前日までの情報や本日の予定を全員で共有する時間を確保。	/	/	/	/		LINEなどの共通ツールを使うことで職員全員に伝達するよう徹底。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終礼でその日行われた支援の振り返りと気付いた点を報告、追記があればLINEで伝達。	/	/	/	/		翌朝の朝礼で再度共有できるように努める。
	10 日々の支援についての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	PCと紙媒体、双方に記録を残すようにしている。	/	/	/	/		IPAD導入で更なる業務の効率化を図っている。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	まず職員間でモニタリング会議を実施した後、保護者様等を交えてのサービス担当者会議の実施。	/	/	/	/		保護者様の希望時間に出来るだけ寄り添う。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	現在は出来るだけ職員全員が参画するようにしている。	/	/	/	/	相談支援専門員がいない方への支援について。	
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療ケア対象児は数名在籍。学校や保護者様との連携を最重要視している。	/	/	/	/	全体的に医療の知識が不足。	
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	主治医の指示等は保護者様経由で受領し、療育の場で反映するように努めている。	/	/	/	/	連携構築に向け努力が必要。	
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	児童の通う学校とは、送迎時には先生への声掛けを密に行ない、情報の共有と蓄積を図る。	/	/	/	/	守秘義務保持を肝に銘じている。	
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	情報を出来る限り提供出来るように努めている。	/	/	/	/	職員全員が、見やすく、分かりやすい資料の作成を心がけ、いつでも情報が提供できるようにしておく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	コロナ禍により現在は実践出来ていない。	/	/	/	/	コロナ終息後、実践していく。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ禍により交流は出来てない。びんぼんだよりを近隣保育所に郵送等の情報発信は実施。	2	2	0	4	コロナ解除後は活動していきたい。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	消防署職員立ち合いによる消防訓練を実施するので地域住民に声掛けを行い招待をする予定。	/	/	/	/	今後はもっといろんなイベントを地域の方と一緒にやりたい。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	専門用語を避け、保護者様に分かり易い丁寧な説明を心掛けている。	6	1	0	1	これまで通りの対応を継続していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	専門用語を避け、保護者様に分かり易い丁寧な説明を心掛けている。	7	0	0	1	これまで通りの対応を継続していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことで子どもが適切な行動が出来るようになるので、保護者との連携を強くしていく。	/	/	/	/	子どものことで気になることがあれば、送迎時に職員が保護者と直接話をする機会を増やし、子どものその行動に対する根拠・理由を理解してもらう。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	個別の面談を不定期に行うことで悩みや相談に応じる体制を直接話をするようにしています。	7	1	0	0	今後も現状を継続していきます。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	まだ父母の会等の連携組織は作られていません。	2	2	4	0	小学生から高校生まで学年の差等により保護者間の連携は困難だと思いが検討したい。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情等は職員全体で捉え、迅速に明瞭に回答する事を心掛けている。	3	3	0	2	苦情を「ご意見」と捉え、真摯に受け止める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	視覚支援等のSST(ソーシャルスキルトレーニング)に力を入れている。	7	0	0	1	非言語コミュニケーションを重要視していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	令和4年10月よりびんぼんだよりを毎月発行し、全児童に配布している。また、事業所玄関にも掲示している。	7	1	0	0	毎月発行が継続できるよう努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	書類等は勿論、電話でのうっかりミスには注意。	8	0	0	0	SNS等による情報発信の際には、細心の注意を払う。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	同一法人に老人保健施設があり、同事業所の医療職が立案したマニュアルを踏襲している。それ以外でも随時助言等ももらっている。	5	1	0	2	コロナ対策は特に念を入れて行っている。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回、同一法人で同じ建物にある高齢者グループホームと共同で訓練を実施。児童の一部も参加して行う。	5	1	0	2	消防職員の立会いのもと、消防訓練を1月に実施予定。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	身体拘束に関する研修と虐待に関する研修のそれぞれに担当を決めている。	/	/	/	/	それぞれに研修を行い、レポートを課している。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載						
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在、アレルギーに関して該当者はいない。	/	/	/	/	これからもご利用前に必ず面談シートに記入してもらい、把握していく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット作成の大切さ職員全員で共有認識する。	/	/	/	/	危険な出来事があった、起こりそうだった場合、当日の終礼ミーティングで報告・協議する。